今泉台住宅地成熟社会のまちづくりに関するアンケート調査2023 結果報告

拝啓　時下、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度はご多忙の中、「今泉台住宅地　成熟社会のまちづくりに関するアンケート調査2023」にご協力頂きまして、誠にありがとうございました。お陰様で多くの貴重なご意見を伺うことができました。大変遅くなりましたが、アンケートの分析結果をまとめましたのでご覧ください。横浜国立大学建築計画研究室では2013年から「長寿社会のまちづくりに関するアンケート調査」というタイトルで５回アンケートを実施させていただきました。このうち、2020年と2023年は下記三者が主体となり実施しました。本結果報告書では、2023年のアンケート結果を中心に以前の調査結果を比較する形で報告させていただきます。

なお、末筆ながら、書中をもって御礼申し上げますとともに、皆様のご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

敬具

横浜国立大学建築計画研究室・今泉台町内会継続居住研究会・NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台

◆ 分 析 結 果 ◆

調査概要

・調査地域：鎌倉市今泉台1～7丁目、山ノ内（一部）

・調査時期：2023年 2月

・回答：1,044名、 706世帯から回答

・回答率：人口に対して22.8%、世帯数に対して28.8%

※「n=00」は各問の回答者数を示す。

1. 回答者の属性

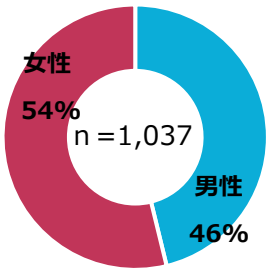


図1 回答者の性別

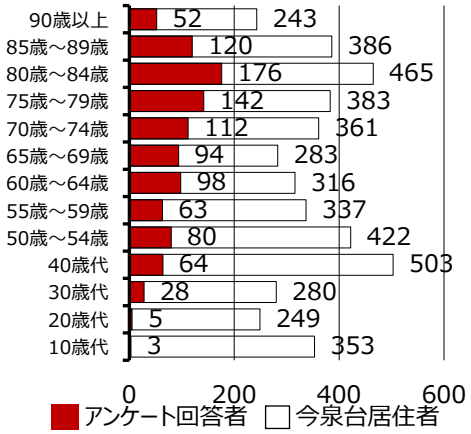


図２ 回答者の年齢

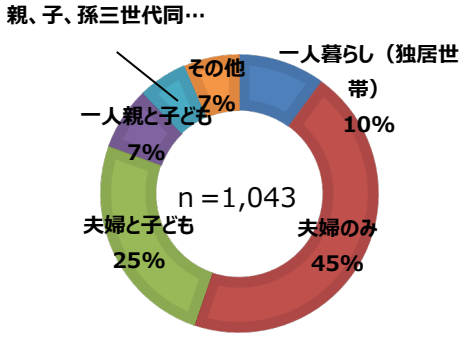


図3 回答者の家族類型

回答者1,037名のうち、 女性が約55%で,男性が約46%。回答者の年齢は、80-84歳が17%で最も大きな割合を占めている。次いで、75-79歳が14%であった（図1、図2)。 回答者の家族類型は、夫婦のみの世帯が45%で最も高い割合を占めており、1人暮らしの割合は約10%であった（図3)。

また、以前の調査での回答者の年齢構成を見ると、2013年、2015年、2020年においては75-79歳が最も大きな割合を占めていたが、2023年調査では80-84歳が最多（176名、17%）であった。また、2023年調査においては、50歳代の割合14%が、以前の調査に比べ約5ポイント増加した（図4）。この年齢構成の変化がアンケート結果に反映していると思われる。

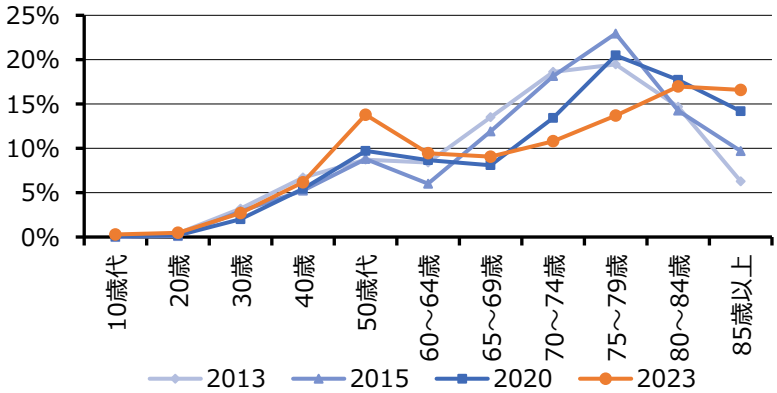


図4 2013, 2015, 2020, 2023調査における回答者の年齢構成

2.「外出」について

1)外出頻度

一週間に外出する日数については「ほぼ毎日」と答えた人が38%と最も多く、全体の64%の人が一週間のうち4日以上外出している。一週間のうち4日以上外出した回答者の割合は、2013年の調査では75%で、11ポイント減少した。これは、今泉台居住者の多くを占めている入居第１世代の高齢化によることだと考えられる（図５）。

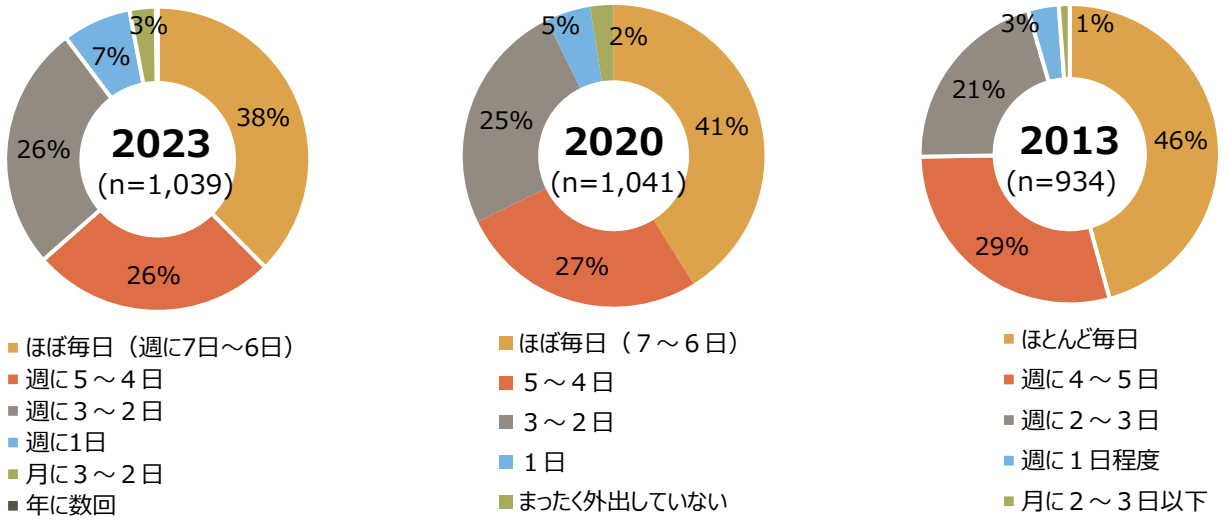


図5　外出の頻度

2)外出の際に移動に困ること

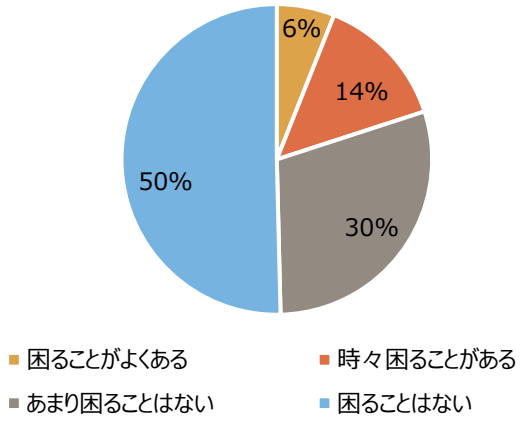


図６ 外出の際に移動に困ること(n=1,030)

約２割の回答者が、外出の際に困ることがあると回答した（図５）。困ることの詳細は、「タクシー代が高く、使いづらい」が52%（102名）で最も高い割合を占めており、次に「自分で車を運転したいが今はできない（控えている）」（42%、83名）、「バスの便数が少ない、合わない、ルートが不便」（38%、75名）の順であった（図６、図７）。

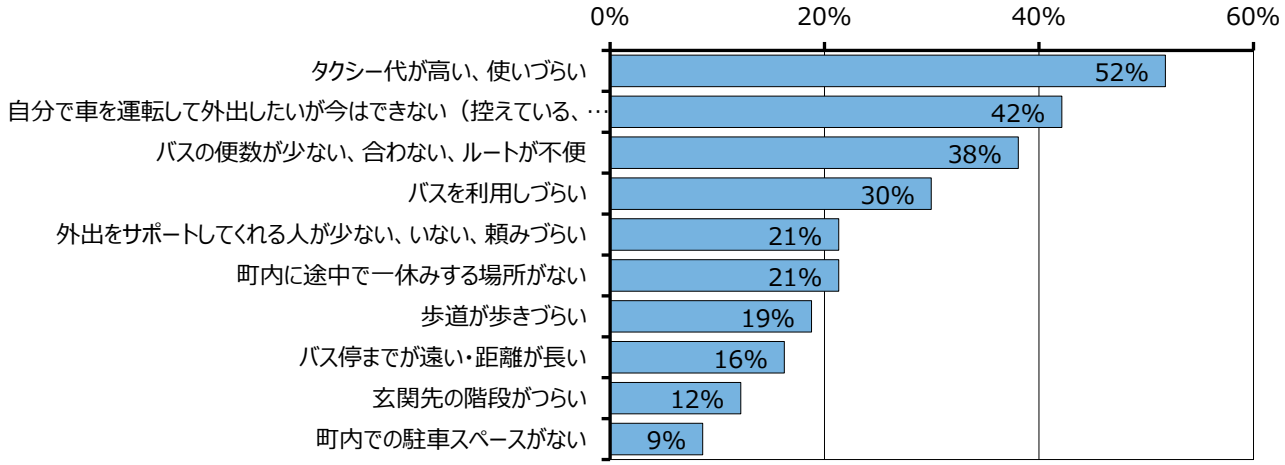


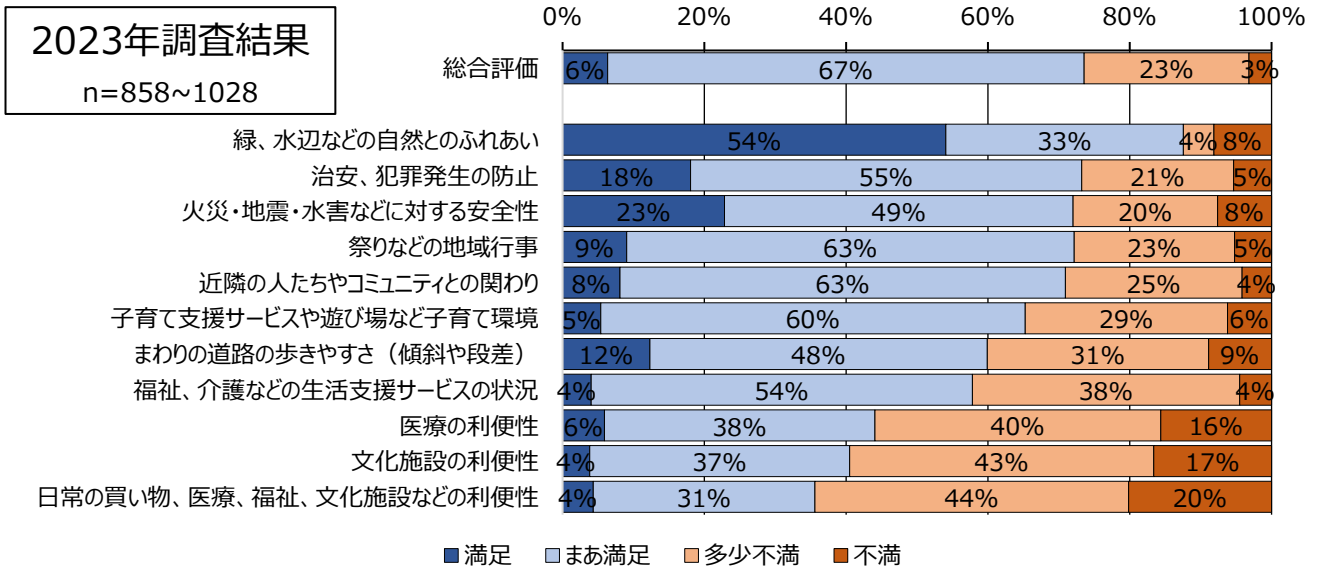
図７ 外出の際に移動に困ることの詳細（複数回答, n=197）

3.「地域への満足度」について

1)住環境評価

今泉台住環境の総合評価については、回答者の７割以上が満足（満足+やや満足）していると回答した。特に「自然とのふれあい」についての満足度が非常に高く、87%に至る。また、治安、安全性についての評価も高かった。反面、利便性についての評価が低く、「日常の買い物、医療、福祉、文化施設などの利便性」は35%のみ、「文化施設の利便性」は41%の回答者のみが満足している。

2020年の調査と比較すると、各項目の順位は概ね同様であるが、「日常の買い物・医療・福祉・文化施設」についての満足度は13ポイント、「福祉、介護などの生活支援サービスの状況」についての満足度は20ポイント、「子育て支援サービスや遊び場などの子育て環境」についての約14ポイント増加した（図８）。



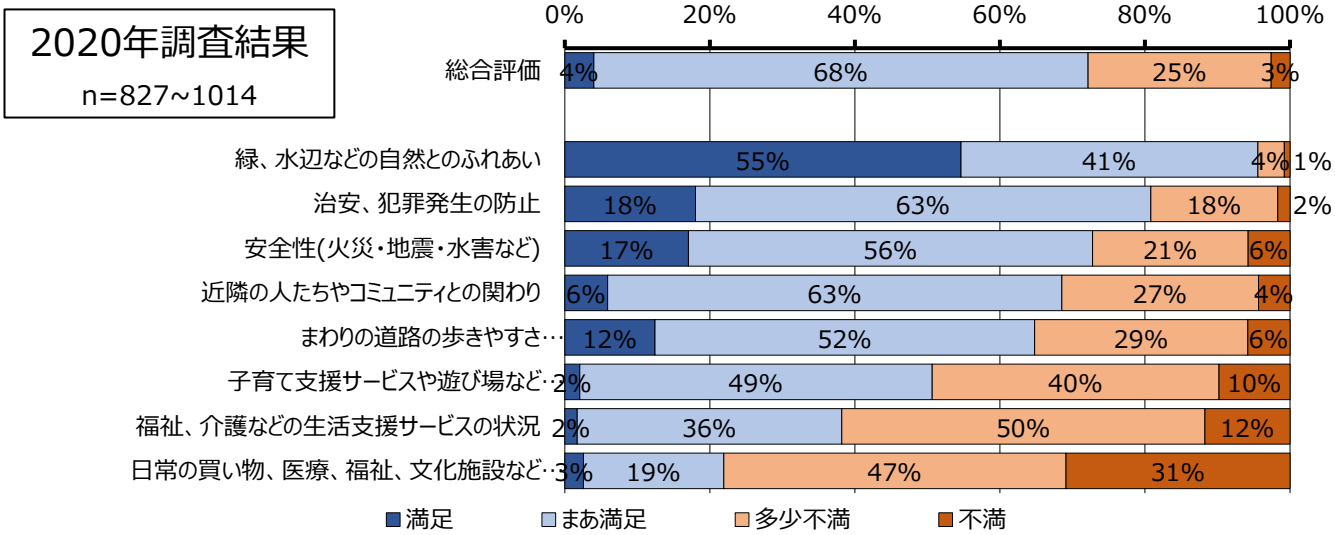


図８　今泉台の環境についての評価

2)高齢者福祉環境への評価

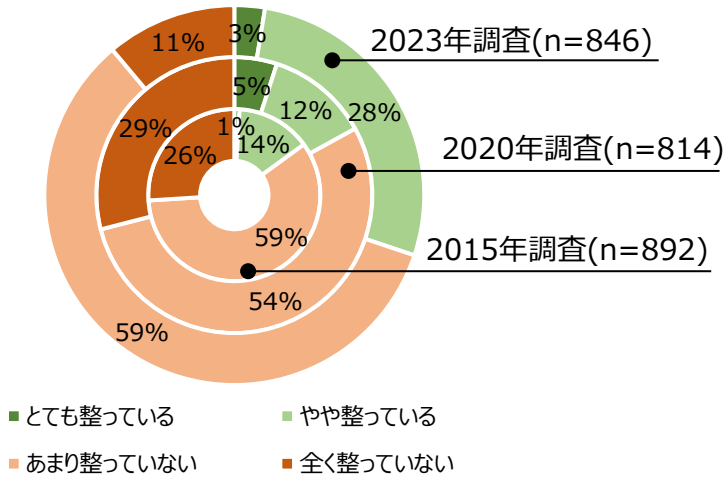


図９　高齢者福祉環境へ評価

2023年調査結果では、高齢者福祉環境が「整っていると思う」回答者（とても整っている+やや整っている）が31%、「整っていない（あまり整っていない＋全く整っていない）」と思う回答者が70%であった。

2015年と2020年と2023年を比較してみると、「福祉環境整っている」と思う回答者の割合は、15%→17%→31%で増加している。特に近年３年で大幅に増加している(図９)。

3)既存居住者と新規入居者の住環境評価に対する違い

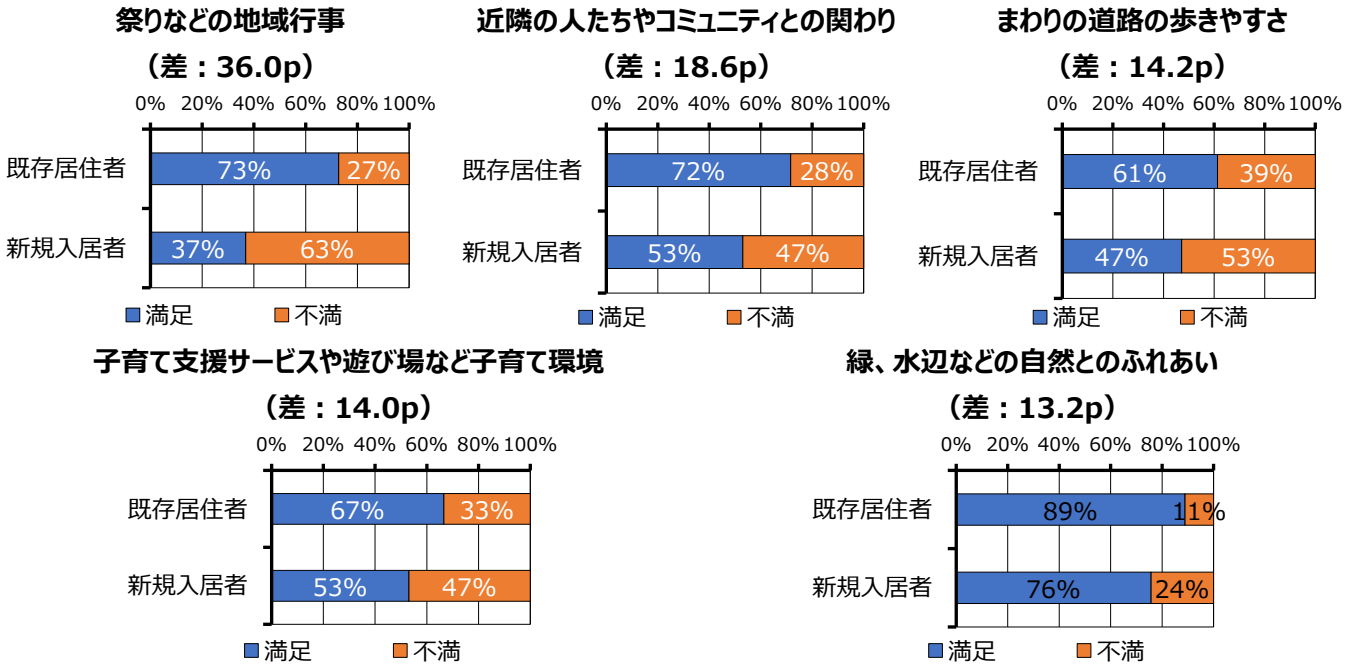


図10　既存居住者と新規入居者の住環境評価に対する違い(既存居住者は904名、新規入居者：103名)

前述した住環境評価の各項目を、回答者を「既存居住者（今泉台で５年以上居住している人）」と「新規入居者（今泉台で５年未満居住している人）」に分けて分析した。既存居住者は904名（主に60歳代以上）、新規入居者：103名（主に30-50歳代）であった。

結果として、図10で示す５つの項目において大きな差が確認できた。満足度において既存居住者と新規入居者の差が最も多かった項目は「祭りなどの地域行事」で、既存居住者は73%が満足しているに関わらず、新規入居者は37%のみが満足しており36ポイントの差が確認できた。次に「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」では既存住民72%満足、新規入居者53%満足で18.6ポイントの差があった。他に「まわりの道路の歩きやすさ」、「子育て支援サービスや遊び場など子育て環境」、「緑、水辺などの自然とのふれあい」においても既存居住者と新規居住者の評価において差があることが把握できた。

4.「地域へのかかわり方」と「地域への愛着」について

1)近所付き合い

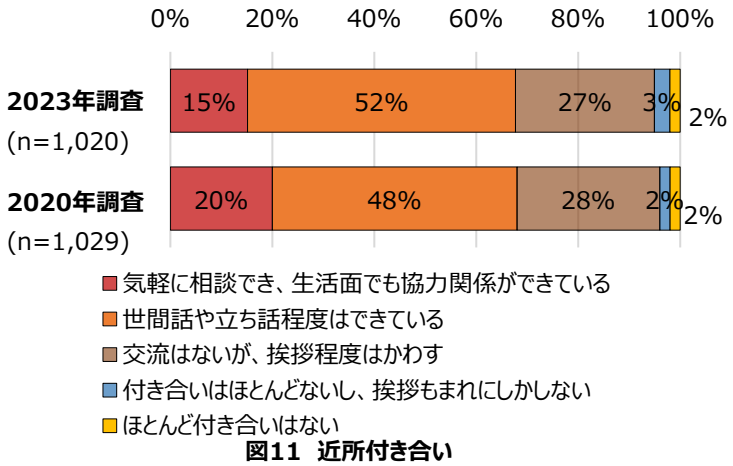


図11　近所付き合い

近所付き合いは、2023年調査では「世間話や立ち話程度」が52%、「気軽に相談でき、生活面でも協力関係ができている」は15%であった。

2020年と比較してみると、「気軽に相談でき、生活面でも協力関係ができている」が5ポイント減少、「世間話や立ち話程度」が4%増加(図11)。

2) 地域活動への参加

地域活動への参加割合はどの活動も「女性」の参加が「男性」を上回っているものの、多くて３割程度である。2020年と2023年で比較すると、男女ともに「趣味活動」、「ボランティア活動」が減少する一方で、男性では「伝承活動（特技や経験を他者に伝える活動）」が増加し、女性では「スポーツ」「学習・教養活動」が微増した（図12）。

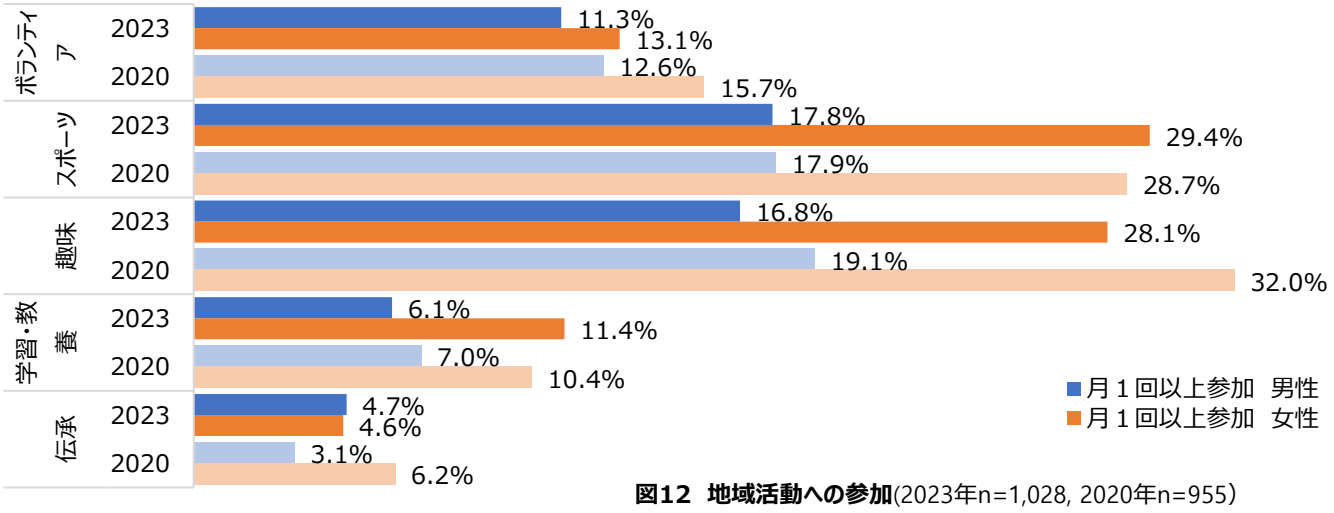


図12　地域活動への参加(2023年n=1,028, 2020年n=955)

3)地域への愛着

2023調査結果、地域へ愛着を「感じている」回答者は40%、「やや感じている」回答者も40%で、地域への愛着は高いと言える。ただし、３年前に比べると、地域へ「愛着を感じている」回答者が58%→40%で18ポイント減少した（図13）。

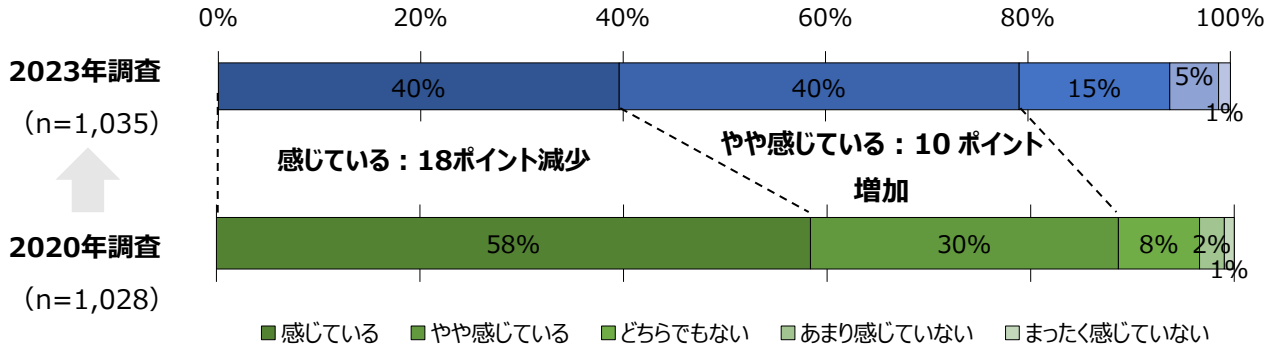


図13　地域への愛着

4）住み続けたい意識

2023年調査では、住み続けたい（住み続けたい+できれば住み続けたい）と回答した人が79%で、多くの回答者が今泉台で住み続けたいと思っている。ただし、住み続けたいと思っている人は、2013年には89%、2020年には85%で継続して減少している。転居したい人は５%で調査時期による変化はなく、利便性の高い地域への転居を希望している(図14)。

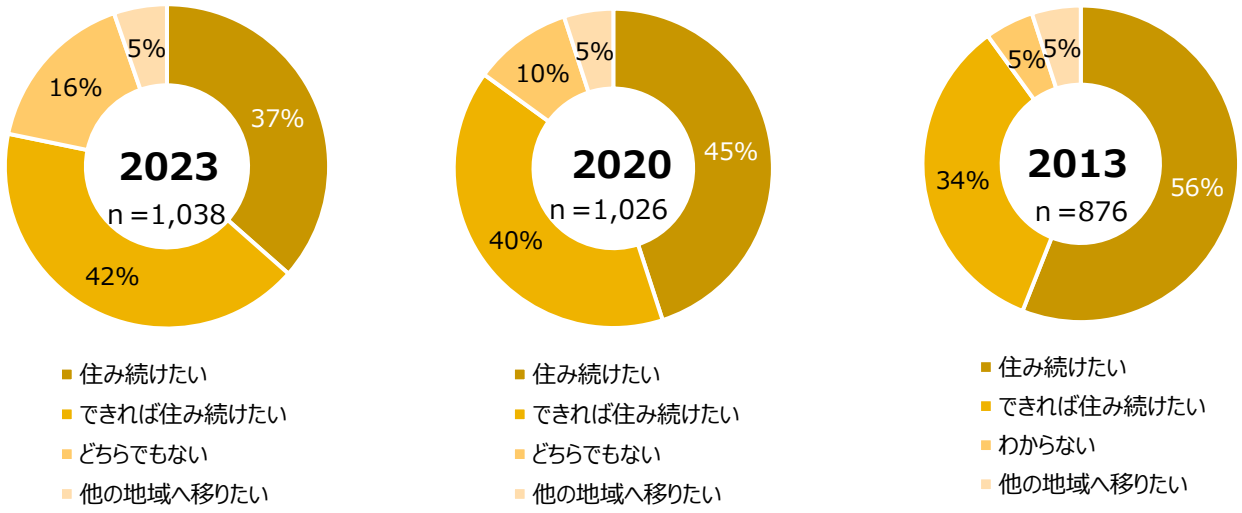


図14　住み続けたい意識

5．「空き家」と「地域の将来」について

1)空き家・空き地の活用（2023年調査）

空き家・空き地をどのように活用してほしいかと聞いた結果、「診療所などの医療サービス拠点」になってほしいと回答した人が82%で最多であった。次いでに「高齢者のための福祉施設」が79%、「子どもや子育てのための施設」が78%、「散策などの途中に少し休める場所（東屋やベンチなど）」が78%の順であった（図15）。

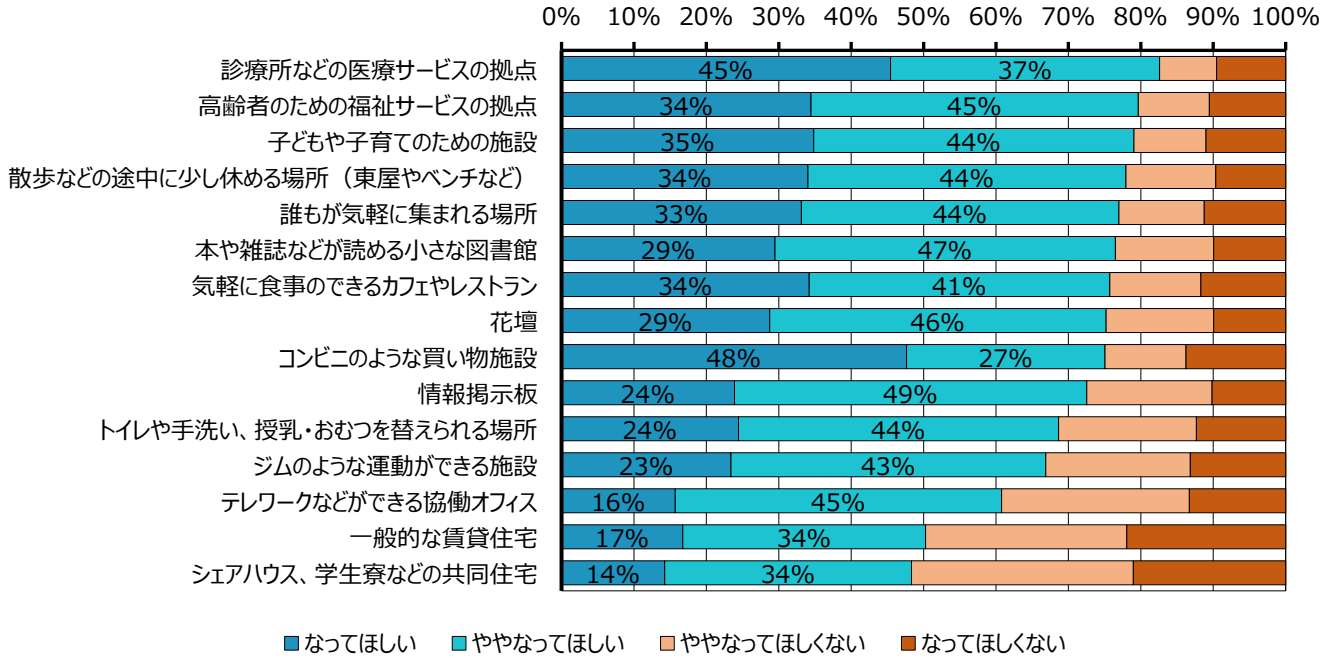


図15　空き家・空き地の活用希望（n=910~974）

2)今泉台地区の10年後、不安に感じること

今泉台地区の10年後、不安に感じることは、2020年調査と2023年調査を比較すると「空き家や空き地の増加」、「高齢者の増加」が上位で、大きな変動はなかった。しかし、「とても不安に感じる」の割合は全ての項目において大幅増加している（図16）。

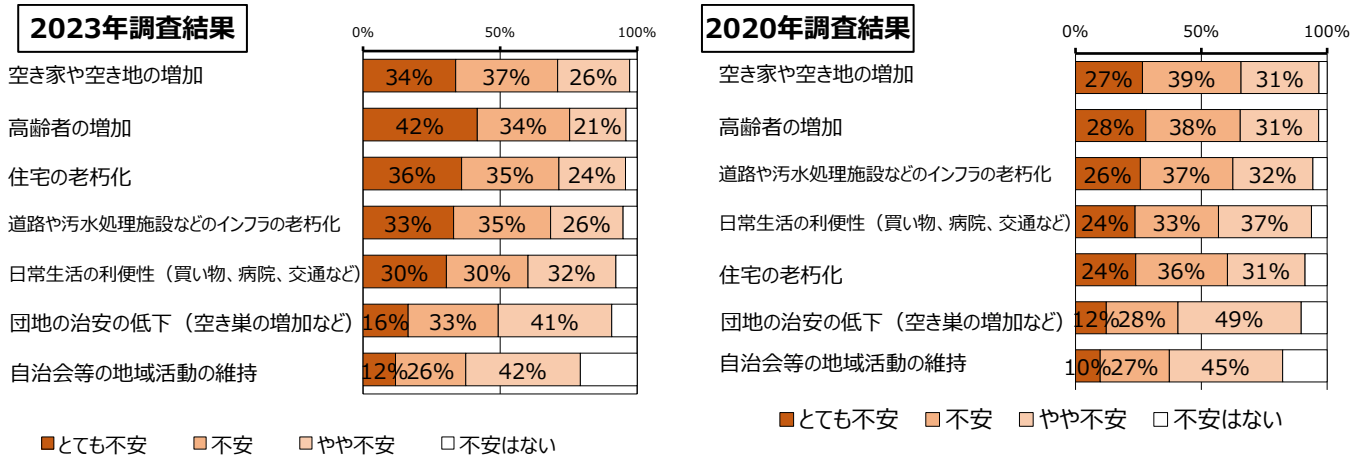


図16 今泉台地区の10年後、不安に感じること(n=1,001~1,019)

6. 「健康」について

1)主観的健康感

2020年の調査と比較すると、65歳以上において「健康である」人の割合が高くなっており、2020年よりも健康であると自覚している人の割合が6ポイント上昇していた（図17）。

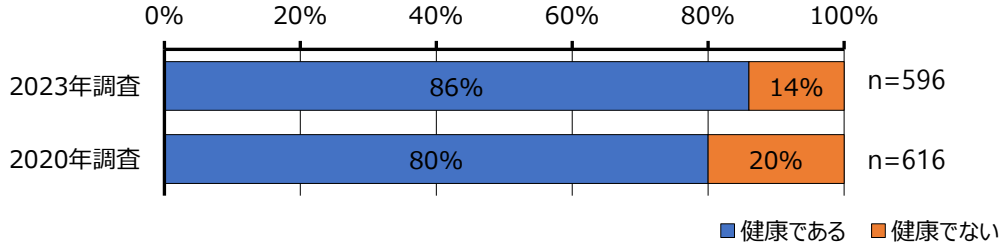


図17 主観的健康感（65歳以上）

2)フレイル（基本チェックリスト総合点からの評価）

フレイルとは、健康な状態と要介護状態の中間の段階を指す。2020年と比較すると、どの年齢層においても「非フレイル」の割合は減少しており、代わりに「プレフレイル」「フレイル」の割合が増加した結果となった。全体でみても2020年では「非フレイル」の割合が46%であったのに対し、2023年では30.8%と大幅な減少が見られ、代わって「プレフレイル」の割合は2020年の29.8%から2023年の43.7%までに増加した。一方80歳代以上では、「フレイル」割合が2020年と比較して減少していた（図18）。

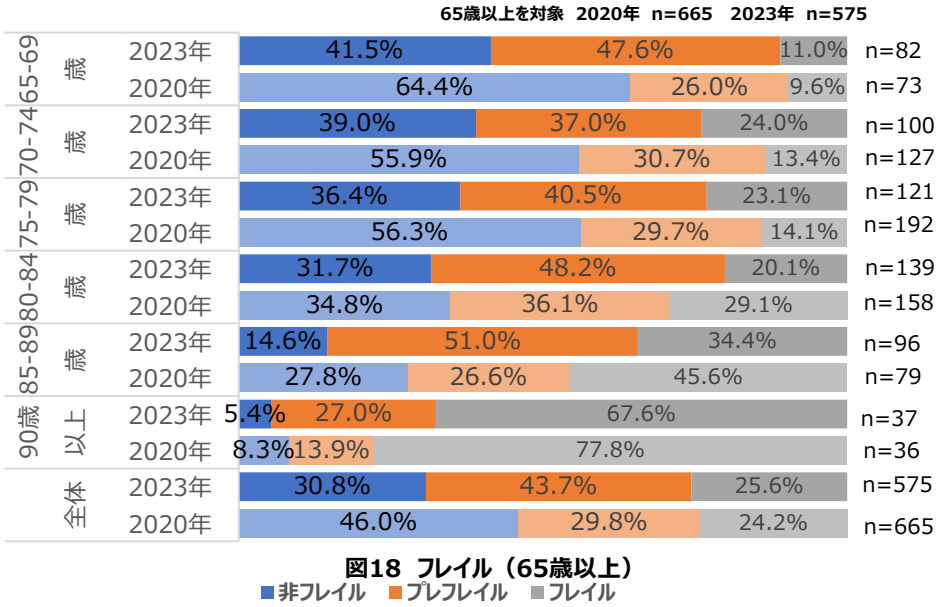


図18 フレイル（65歳以上）

※「最近体力が落ちてきた」など、ご心配な方は、「鎌倉市地域包括支援センターふれあいの泉」にご相談ください。

＊フレイルについて詳しくは、こちらをご参照ください。

健康長寿ネット
https://www.tyojyu.or.jp/net/byouki/frailty/about.html

＊高齢者の方が利用できるサービスや介護保険制度については、こちらをご参照ください。

鎌倉市シニアガイド
https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kaigo/siniagaido_3.html

3) 自分に介護が必要になった場合に、介護を受けたい場所

2020年・2023年どちらにおいても、全体で８割が自宅で何らかのサービスを受けながらの介護を望んでいる（図19）。

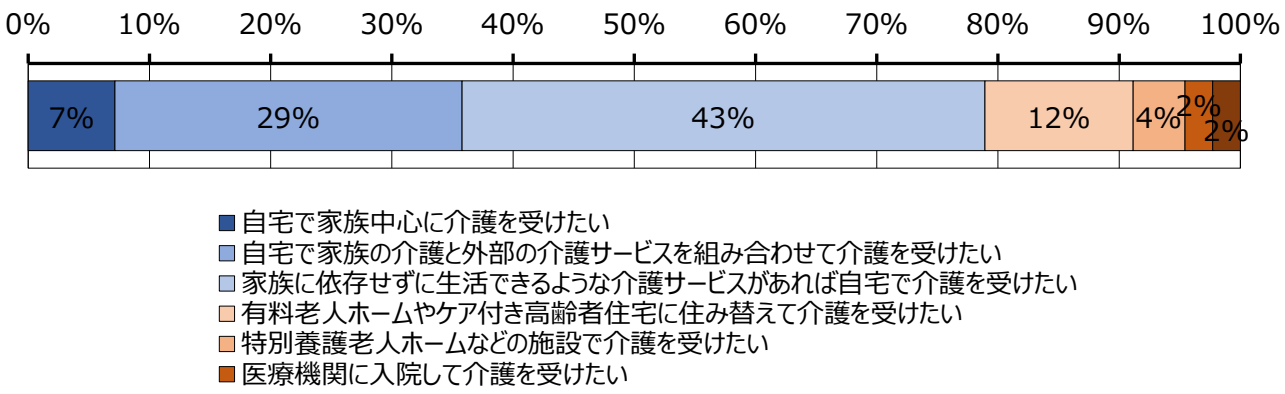


図19　自分に介護が必要になった場合に、介護を受けたい場所(n=1,006)

4)転倒場所

転倒した場所は「今泉台内の歩道」が最も多く、その割合は転倒経験のある223人のうちの約30%（67件）であった。続いて、今泉台地区以外の歩道、室内階段、屋外階段、玄関、寝室の順であった（図20）。2020年と比較すると、屋外階段、トイレの割合が微減している。

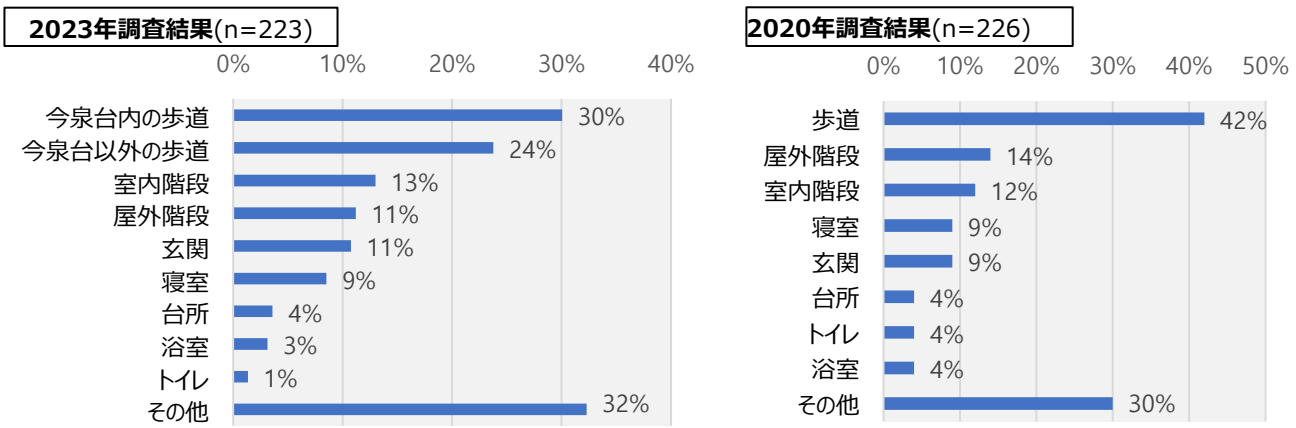


図20　転倒場所

7. まとめ

■ **既存住民の高齢化による課題：**入居１世代の高齢化による課題がより顕著化していると考えられる。特に外出頻度の減少が著しい。体操などの健康関連イベントへの声がけなど外出する機会を増やせるとともに、散歩中に休める場所の設置など高齢者が安心して外出できる環境整備が必要である。

■ **健康面での課題：**COVID-19の影響をうけ、外出自粛や地域活動を見合わせたことによりフレイルが進行した。現在は地域活動も概ね再開してフレイルからの回復が期待できるとともに、豊かな自然を活かし、より幅広い住民が参加可能となる多様な地域活動の創出が望まれる。また、経年変化により地区の歩行環境が悪化している可能性があり、転倒や事故のリスクがある。視界を遮る植栽の整備や歩道の修繕など子どもや高齢者に配慮した環境整備が必要である。さらに、今後全国的に増加が予測される認知症についても理解を深め、認知症のある人にもやさしいまちづくりの推進が期待される。

■ **世帯の入れ替わりによる課題：**近年、今泉台では住宅建設が散見されることから、世代の入れ替わりが加速化していると考えられる。そのため、「希望する近所付き合い」、「地域への愛着」、「住み続けたい意識」などの項目において大きな変化が現れたと推察できる。「既存居住者と新規入居者の住環境評価に対する違い」を通じて、既存住民と新規入居者の住環境に対する満足度に大きな違いがあることが確認できた。今回の調査では満足度のみを聞いたので、詳細は把握できていなが、特に大きな違いが確認できた「祭りなどの地域行事」については、地域行事の対象・内容・場所・回数などなぜ満足度に大きな違いがあったら具体的に把握する必要がある。